

授業科目 NO. 504 成人看護学実習 I (急性期看護実習)

Adult Nursing Practicum I (Acute Care Nursing)

授業の形態： 実習

単位数（時間数）： 2 単位（90 時間）

開講年次・学期： 3 年次・前後期

必修・選択の別： 必修

キーワード： 周術期看護、看護過程、緩和ケア、療養支援

1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学 修 目 標

1) 一般目標（GIO）

周手術期にある患者を全人的に理解し、手術侵襲からの回復と主体的な療養生活を支える看護を実践するための基礎的能力を修得する。

2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 手術を受ける患者の身体的、心理的、社会的側面を包括的にアセスメントできる。(①②)
- (2) 手術を受ける患者の看護上の問題を抽出し、看護計画を立案できる。(①②)
- (3) 術前の心身の準備状態を整えるための援助ができる。(①②)
- (4) 手術内容および手術室における看護師の役割を説明できる。(①②)
- (5) 手術に伴う苦痛を緩和する援助ができる。(①②)
- (6) 術後合併症を予防し回復を促進する援助ができる。(①②)
- (7) 術後の回復過程に応じた日常生活の援助ができる。(①②)
- (8) 退院後の健康管理および社会への適応を促す援助ができる。(①②)
- (9) 周術期医療における多職種連携について説明できる (①②)

3 学 習 内 容

学習内容については実習要項に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	%
実習成績	100%
レポート	%
授業態度	%
小テスト	%
その他	%
合計	100%

(特記事項)

5 教育担当者

科目責任者 : 清水 玲子

准 教 授 清水 玲子 (成人看護学)

講 師 浅野 きみ (成人看護学)

6 教育担当者の実務経験

担当教員は看護師としての実務経験を有している。

7 教 科 書

1) 林直子他 編：成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護、南江堂

8 推 薦 参 考 書

(看護過程の展開)

1) 任 和子 編：領域別看護過程展開ガイド、照林社

2) 井上智子、窪田哲朗 編：疾患別看護過程＋病態関連図、医学書院

(臨床看護)

3) 北島泰子、中村充浩 著：急性期実習に使える！周術期看護ぜんぶガイド、照林社

4) 竹内登美子 編著：高齢者と成人の周術期看護 1.外来/病棟における術前看護、医歯薬出版

5) 竹内登美子 編著：高齢者と成人の周術期看護 2.術中/術後の生体反応と急性期看護、医歯薬出版

6) 竹内登美子 編著：高齢者と成人の周術期看護 3.開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護、医歯薬出版

7) 竹内登美子 編著：高齢者と成人の周術期看護 5.運動器疾患で手術を受ける患者の看護、医歯薬出版

9 準備学習に必要な時間及び具体的な学修内容

周術期医療、周術期看護に関連する講義・演習の資料、教科書、推薦参考書を活用し、下記の内容を事前学修する。所要時間は5時間を目安とする。

- ・手術侵襲に伴う生体反応
- ・全身麻酔下手術に共通する術後合併症（要因、メカニズム、発症しやすい時期を含む）
- ・全身麻酔下手術に共通する術後合併症を予防する標準看護計画
- ・実習開始前の週末に提示される受け持ち患者の情報（疾患・術式・既往歴等）に基づき、受け持ち患者の病態、術式、術後合併症、術前・術後管理、退院後に必要となる健康管理

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) 実習記録については毎日コメントする。
- 2) カンファレンス・反省会、評価表により、到達度や今後の課題をフィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) 実習中は遅刻・欠席をしないように、体調管理に十分注意して臨むこと。
- 2) 疑問・質問は、なるべくその日のうちに教員・実習指導者に確認すること。
- 3) 実習後の評価と内省は十分行うこと。
- 4) 感染予防策に関しては、「看護学部臨地実習の要項」に準ずる。

12 オフィスアワー等

実習前の実習に関する質問や相談は随時対応する。事前にメールで都合を確認すること。

清水 rshimizu@kanazawa-med.ac.jp

浅野 asanok@kanazawa-med.ac.jp

実習中の担当教員への連絡方法は、実習初日に伝達する。